

13. 甲状腺腫瘍と鑑別困難な schwannoma の 1 症例の画像診断

原 巖 杉浦 康弘 西崎 恒男
 (協立総合病院・内)
 加藤 芳司 (同・外)
 藤野 雅彦 (名大・一病理)

Schwannoma (神経鞘腫) は良性腫瘍で頸部の発生は比較的稀である。症例は 39 歳の女性で右頸部腫瘍を指摘された。超音波検査で甲状腺右葉に境界明瞭な低エコーレベルの腫瘍性病変を認めた。Tc, Tl 同時投与シンチグラムでは正常画像所見で、甲状腺腫瘍は否定的であった。しかし、CT-scan では右葉内に low density の所見を得、MRI では T2 強調画像冠状断で食道の圧迫像を認め、甲状腺悪性腫瘍の疑いをもたれた。腫瘍摘出術後そのマクロ所見では全く甲状腺と関連性がなく、確定診断では甲状腺に近接した神経鞘腫と診断された。

14. 甲状腺腫瘍と鑑別困難であった Hemangiopericytoma (HPC) の 1 症例

原 巖 杉浦 康弘 西崎 恒男
 (協立総合病院・内)
 加藤 芳司 (同・外)
 藤野 雅彦 (名大・一病理)

甲状腺に近接し甲状腺疾患と鑑別が困難であった HPC の 1 例を経験したので報告する。超音波検査では甲状腺左葉領域に甲状腺組織よりエコーレベルの低い充実性腫瘍性病変を認めた。Tc シンチグラムでは左葉領域に RI の集積で欠損像、Tl で強い集積を甲状腺腫瘍に一致する所見を認めた。CT-scan および MRI でも、左葉から腫瘍性病変が上方へ進展していた。術後のマクロ所見では腫瘍は甲状腺と全く連続性がなく、病理標本では HPC と診断され、甲状腺は正常組織であった。

15. Tl-201 肺 SPECT で描出した radiologically occult 肺癌の 1 例

利波 紀久 横山 邦彦 滝 淳一
 久田 欣一 (金沢大・核)
 渡辺 洋宇 (同・一外)
 高島 力 (同・放)
 野々村昭孝 (同・病理部)

Tl-201 SPECT 検査で radiologically occult 早期肺癌症例を提示した。66 歳男性、喫煙者で無症状。肺癌健診で喀痰細胞診陽性で精密検診となる。胸部 X 線写真異常認めず、コンピュータ断層像、CT でも病巣指摘できなかった。

気管支ファイバーで右気管支 3b に腫瘍様病巣があり、生検で扁平上皮癌が示唆された。Tl-201 chloride を 6 mCi (222 MBq) 静注し 15 分と 3 時間後に対向 2 検出器ガンマカメラ (ZLC-7500, Siemens-Shimadzu 製) で胸部を SPECT 撮像した。

両スキャンのいずれの断層像においても右肺門近傍に明瞭な異常集積が観察された。縦隔には異常は認めなかった。右上葉切除と縦隔廓清が施行され、肉眼的に右気管支 3B に長径 15 mm の長さで気管支粘膜を取り巻くように病巣は存在した。病的には高分化型の扁平上皮癌で早期癌であった。

本法により形態画像で不明な肺癌病巣の描出の可能性を強調した。

16. 末期慢性腎不全に伴う肥大心におけるジピリダモール負荷タリウム心筋シンチグラフィの意義

千田 豊 水谷 安秀 野北 毅
 (社会保険羽津病院・内)
 松村 要 伊藤 綱朗 吉田 亘孝
 安田 龍市 高木 勲 (同・放)
 高橋 明彦 篠原 有幸 (同・検査部)

[目的] dipyridamole 負荷 Tl SPECT を用いて末期慢性腎不全に伴う肥大心の冠循環動態を肥大型心筋症と比較検討した。[対象] 1) 末期慢性腎不全患者 10 名, 2) 肥大型心筋症 9 名, 3) 健常者 7 名。[方法] dipyridamole 0.56 mg/kg を 4 分間で静注後、Tl 74 MBq (2 mCi) を静注し回転型ガンマカメラで SPECT および Planar 像